

災害時の情報伝達において2020年に目指す姿（高齢者の場合）

現状

災害情報、避難情報を十分に受け取れない...



2020年に目指す姿

確実に災害情報、避難情報を受け取れる！

※「」の中は、実現に資する総務省関連施策

【情報伝達手段、避難支援の整備】

自宅滞在時



福祉施設



自宅

携帯電話を持っていないと、緊急速報メールが届かない

2020年に目指す姿の例

<自宅滞在時>

屋内にいても音声がかえやすい戸別受信機や自動起動ラジオ等が配備されて情報が確実に届くように！

「災害情報伝達手段等の高度化」「災害時の情報伝達体制の強化」「防災行政無線の導入促進」「コミュニティ放送を活用した自動起動ラジオの周知・展開」「マイナンバーカードとスマートテレビを活用した防災システム」等



戸別受信機 自動起動ラジオ スマートテレビ



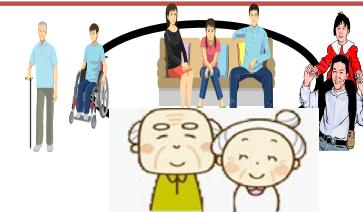
自宅の中にも安心！

自宅の中では、屋外スピーカーの音声が聞き取りづらかったり、聞こえない場合がある

<自宅滞在時>

共助の精神に基づく自主防災組織が高齢者の地域での的確な情報伝達を補い、支え合う体制に！

「自主防災組織による情報伝達に係る先駆的取組支援」

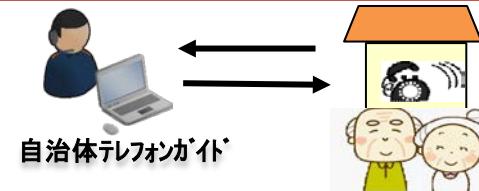


共助による支え合いで安心感アップ！

<様々な場面>

自治体からの情報を聞き取りづらかったり、聞き漏らしても、あとから電話等で確認して確実に把握できるように！

「災害情報伝達手段等の高度化」「災害時の情報伝達体制の強化」

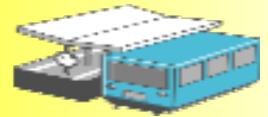


自治体テレフォンガイド

聞き漏らしても確認できる安心感が日頃からの心のゆとりにも！

屋外移動中

駅等のターミナル施設



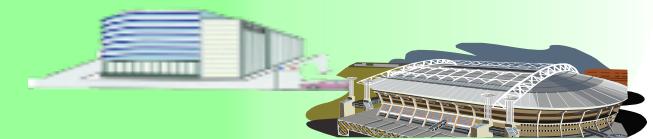
公共交通機関内

外にいても屋外スピーカーから離れていると、音声が聞き取りづらかったり、聞こえない場合もある



徒歩

農作業



観光・商業・スポーツ施設

屋外活動時

【情報伝達の基盤整備】

<様々な場面> 情報通信インフラの耐災害性を進めることで、災害が発生しても、いつもと変わらず使えるように！

「ラジオの難聴対策」「コミュニティ放送による情報伝達手段の多重化」「放送ネットワークの強靱化」「ケーブルテレビの耐災害性の向上等」「可搬型予備送信設備等の配備」等